

【特別枠：米山学長推薦図書】

No.	書名	著者	内容紹介	学長からの推薦コメント	カテゴリ	請求記号
推薦 ①	『君はこの国を好きか』	鷺沢萌	フォーターの在日韓国人である著者が、韓国留学の経験を通して、自らのアイデンティティと真摯に向き合う姿を小説という形で表現した作品。	高橋和巳の『邪宗門』は分厚く読書慣れしていないと難しく、直木賞の話題作などは時流に乗りすぎているかと考え、あえて今、忘れられつつある彼女の作品を選びました。薄めの本で軽く読めますが、なかなか内容のある一冊です。	小説・アイデンティティ	913.6 SAG
推薦 ②	『自分の感受性くらい』	茨木のり子	生誕100年・没後20年を迎える、戦後日本を代表する詩人による傑作詩集。自身の内面と向き合う凛とした言葉が綴られている。	大学の教師になったばかりの若い頃、授業準備が整わず夜明けに途方に暮れることがしばしばでした。そんな時にこの詩集を読み、「肚を決めてやるしかない」と背中を押されたことを思い出します。「六月」という詩も好きで、読むと黒ビールが飲みたいです。	詩集	911.5 IBA
推薦 ③	『「共感」の思想史』	坂本達哉	現代社会で重要視される「共感」という概念がどのように形作られてきたのかを、西洋の社会思想史の系譜から一般読者向けに読み解いた一冊。	著者は大学ゼミの1年後輩です。彼の才能を見て私は思想史から実証研究へ方向を変えたほど影響を受けた人物です。引用など少し難しいところもありますが、「共感」について思想史という方法・アプローチから知っていただきたい選択しました。	新書・社会思想史	141.26 SAK

【読書初心者向け（ラノベ・大衆小説）】

No.	書名	著者	内容紹介	コメント	メディアミックス	請求記号
1	『化物語』 上巻・下巻	西尾維新	吸血鬼の体質を一部引き継いだ高校生が、体重を奪われた少女など「怪異」に関わった少女たちの事件を解決していく青春怪異小説。	台詞の応酬だけでぐいぐい読ませる文体は、好き嫌いが分かれるくらいクセが強いですが。ハマる人は本当にハマります。	アニメ 漫画	913.6 NIS 5-1 5-2
2	『氷菓』	米澤穂信	「やらなくてもいいことなら、やらない」を信条とする省エネ主義の高校生が古典部に入学し、日常の謎を解く青春ミステリ。	謎解き自体は地味なのに、読み終えると妙に胸がざわつきます。「省エネ」で生きてきた主人公が少しずつ変わっていく過程に、覚えのある人も多いはず。	アニメ 映画等	913.6 YON
3	『図書館戦争』	有川浩	本を読む自由を守るために武装した「図書館」に入隊した笠原郁と、鬼教官らの戦いと恋愛を描く SF アクション。	検閲と戦う図書館、というシリアスな設定なのに読み味は軽快です。恋愛パートのじれったさも含めて、通学中にどんどん読み進められるタイプの本。	アニメ 映画等	913.6 ARI 5-1
4	『ビブリア古書堂の事件手帖』	三上延	鎌倉の古書店を舞台に、古書に関する並外れた知識を持つ美しき女店主が、客が持ち込む古書にまつわる謎を解き明かす。	1話ごとに古書にまつわる謎が解決するので、隙間時間にも読みやすい構成です。読み終える頃には近所の古本屋に寄りたくなっているかもしれません。	映画 漫画等	913.6 MIK 1-1
5	『成瀬は天下を取りにいく』	宮島未奈	中2の夏休み。滋賀県大津市に住む、我が道をいく少女・成瀬あかりが、開店間際の西武大津店に毎日通うなどの奇行を繰り返す青春小説。	周囲の目を全く気にせず我が道を突き進む主人公の姿が痛快！同調圧力に悩みがちな大学生に、枠にとらわれない生き方のヒントをくれます。	漫画	913.6 MIY 33-1
6	『夜は短し歩けよ乙女』	森見登美彦	京都の大学を舞台に、後輩の「黒髪の乙女」に想いを寄せる「先輩」が、彼女の気を引くために空回りを続ける恋愛ファンタジー。	京都の街を舞台に繰り広げられる、ちょっと浮世離れした一夜の物語。回りくどい文体も含めて、大学生の「暇」と「妄想力」を全力で肯定してくれます。	映画 漫画等	913.6 MOR
7	『ツナグ』	辻村深月	一生に一度だけ、死者と生者を会わせることができる使者「ツナグ」。その役割を担う高校生が、様々な依頼人の再会を通して生と死に向き合う。	「もし一度だけ死者に会えるなら誰に会うか」。生と死に向き合うことで、今周りにいる大切な人への接し方が変わるはずですよ。	映画 舞台	913.6 TSU

No.	書名	著者	内容紹介	コメント	メディアミックス	請求記号
8	『舟を編む』	三浦しをん	辞典編集部に異動した主人公が、個性的な編集部員たちと共に、十数年の歳月をかけて辞書『大渡海』を編纂していく。	辞書作りという地味な仕事に十数年かけて向き合う人たちの話ですが、不思議と退屈しません。「仕事にどう向き合うか」を考え始めたタイミングで読むと響くはずです。	映画 ドラマ等	913.6 MIU
9	『告白』	湊かなえ	「自分の娘は事故死ではなく、このクラスの生徒に殺された」という女性教師の告白を発端に、関係者それぞれの視点から真相が語られる。	圧倒的な没入感があり、ページをめくる手が止まらなくなります。読書の面白さと人間の心の恐ろしさを同時に体験できます。	映画 漫画	913.6 MIN
10	『正体』	染井為人	一家三人殺害の罪で死刑が確定した19歳の青年が拘留所から脱獄。逃亡先で名前を変えながら関わった人々が、彼の本当の「正体」に気付いていくサスペンス。	逃亡犯というテーマなのに、読んでいるうちに彼を応援している自分に気づきます。人を見た目や過去だけで判断することについて、考えさせられました。	映画 ドラマ	913.6 SOM
11	『精霊の守り人』	上橋菜穂子	凄腕の短槍使いである女用心棒バルサが、水の精霊の卵を宿したために命を狙われる皇子チャグムを護って旅をする本格ハイファンタジー。	緻密に作り込まれた世界観と心躍る冒険物語は、ファンタジーの枠を超えて、困難に立ち向かう「生きる力」を与えてくれます。	アニメ ドラマ等	913.6 UEH 3-1
12	『また、同じ夢を見ていた』	住野よる	友達のいない小学生の少女が、賢い黒猫や傷ついた女性たちとの不思議な交流を通して「幸せとは何か」を探る感動の青春小説。	小学生の視点で語られる物語なのに、読んでいるのは自分のことのような気がしてきます。忙しい日常の合間に、静かに立ち止まりたい時におすすめです。	漫画	913.6 SUM
13	『ライオンと魔女』	C.S.ルイス	ペペンシー4兄妹が衣装だんすを通り抜け、白い魔女に支配された雪の国ナルニアへと迷い込み、ライオンのアスランと共に戦う。	子ども向けの装いをしていますが、大人になって読み返すと発見が多い一冊です。衣装だんすの奥に広がる世界の描写だけでも読む価値があります。	映画 ドラマ	909.3 LEW 2-1
14	『飛ぶ教室』	エーリッヒ・ケストナー	クリスマス前の寄宿学校を舞台に、それぞれ悩みや事情を抱える少年たちが、劇の練習を通じて友情を深め成長する物語。	刊行から80年以上経つのに、少年たちの悩みや友情は今読んでも古びていません。教育や子どもの成長に関心がある方は特に、心に残る場面が多いはずです。	映画	909.3 KAS

【知的好奇心を刺激する小説・新書（科学等）】

No.	書名	著者	内容紹介	コメント	メディアミックス	請求記号
15	『容疑者Xの献身』	東野圭吾	天才数学者は、想いを寄せる隣人が元夫を殺害したことを知り完全犯罪を企てる。彼の旧友である物理学者が、その論理的トリックに挑む。	トリックの巧妙さもさることながら、最後まで読むとタイトルの意味が全く違って見えてきます。ミステリを普段読まない人にこそ薦めたい一冊。	映画 舞台	913.6 HIG 3-3
16	『アルジャーノンに花束を』	ダニエル・キイス	知的障害を持つ青年が、脳外科手術を受けて天才的な知能を手に入れるが、やがて退行していく運命を彼の日記形式で描く。	日記形式で綴られる文体の変化そのものが、この作品最大の仕掛けです。「賢くなること」が本当に幸せなのか、読み終えてもしばらく答えが出ません。	映画 ドラマ等	933 KEY
17	『すべてがFになる』	森博嗣	孤島で天才プログラマーが死体となって発見される。大学助教授と学生が、密室の謎とプログラムに隠された真意に迫る理系ミステリ。	理系ミステリの元祖とも言われる作品で、独特の乾いた文体は好みが分かれるかもしれませんが、論理でロマンを語るタイプの物語が好きな人には刺さるはずです。	アニメ ドラマ等	913.6 MOR 6-1
18	『博士の愛した数式』	小川洋子	記憶が80分しか持たない天才数学者の「博士」のもとで働くことになった家政婦と息子が、数式の美しさを通じて心を通わせていく。	数学が苦手でも心配いりません。数式そのものよりも、記憶を保てない博士と家政婦親子の穏やかな時間の積み重ねに、静かに心を動かされます。	映画 漫画等	913.6 OGA
19	『ジェノサイド』	高野和明	急死した父から謎のメッセージを受け取った薬学生と傭兵。その二人が、新たな生命体の出現という世界的危機に巻き込まれるSFサスペンス。	薬学生と傭兵という組み合わせの時点で面白さが約束されています。分厚い本ですが、読み始めると一気に最後まで連れていかれます。	-	913.6 TAK

No.	書名	著者	内容紹介	コメント	メディアミックス	請求記号
20	『プロジェクト・ヘイル・メアリー』 上巻・下巻	アンディ・ウィアー	記憶喪失の状態で宇宙船内で目覚めた元理科教師が、人類滅亡の危機をもたらす謎の微生物の謎を解き、科学知識を駆使して奮闘する。	記憶喪失から始まる導入の引きの強さがまず見事です。専門知識がなくても、主人公と一緒に謎を解いていく感覚で読み進められます。	映画	933.7 WEI 1-1 1-2
21	『一晩置いたカレーはなぜおいしいのか』	稲垣栄洋	「一晩置いたカレーがなぜおいしいのか」「子どもがピーマンを嫌う理由」など、身近な食材や料理に隠れた科学的な理由を、農学博士がわかりやすく解き明かす科学エッセイ。	身近な料理を科学的な視点で解き明かす面白さは、日常の「なぜ？」を探究する知的好奇心を大いに刺激してくれます。	-	498.5 INA
22	『新世界より』 上巻・下巻	貴志祐介	1000年後の日本。人類は「呪力」と呼ばれる超能力を手に入れていた。禁断の知識を知った少女少女が異種族との生存競争に巻き込まれる。	牧歌的な導入から一転、後半にかけてどんどん不穏さが増していく構成が見事です。長い作品ですが、読み終えた後の余韻は他にないものがあります。	アニメ漫画	913.6 KIS 1-1 1-2
23	『スマホ脳』	アンデュー・ハンセン	スマホが発する刺激がドーパミン報酬系をハッキングし、現代人の集中力低下やうつ病を引き起こしているメカニズムを脳科学的に警告する。	読み進めるほど、自分のスマホの使い方を疑いなくなってきました。SNSがやめられない理由が脳科学的に説明されていて、地味に衝撃を受けました。	漫画	491.371 HAN
24	『センス・オブ・ワンダー』	レイチェル・カーソン	生物学者が、自然界の美しさや神秘に目を見張る「感性」を子どもと共に分かち合うことの大切さを綴ったエッセイ。	薄い本ですが、読み終えるまでに何度も外の景色を眺めたくくなります。効率を求めがちな毎日の中で、立ち止まって何かに見とれる時間の価値を思い出させてくれます。	映画	404 CAR

【人間や社会を深く見つめる小説・物語】

No.	書名	著者	内容紹介	コメント	メディアミックス	請求記号
25	『何者』	朝井リョウ	就職活動を目前に控えた大学生が情報交換をする中で、SNSでの裏の顔や自己顕示欲、他者への嫉妬を露わにし、現代社会の自意識を浮き彫りにする。	就活中のグループのSNSでの振る舞いが、痛いくらいリアルに描かれています。読みながら、心当たりがあってヒヤッとする人は多いはずです。	映画 舞台	913.6 ASA
26	『コンビニ人間』	村田燭晴	18年間コンビニのアルバイトを続ける主人公が、社会が求める「普通」の生き方と同調圧力に直面しながら自身の存在意義を問い直す。	「普通に生きること」を求められる息苦しさを、ここまで正面から描いた作品も珍しいです。短いのであという間に読めますが、読後にずっと残ります。	ラジオ ドラマ	913.6 MUR
27	『カフェ 保健室』	吉野万理子	横浜の裏路地にある、元教師が営む「大人の保健室」のような喫茶店。子どもの頃に教わった言葉の意味を、店長との対話を通じて見つめ直す連作小説。	保健室という場所を持つ「逃げ場」としての役割が丁寧に描かれています。教育や心理を学ぶ学生にとって、現場のリアルな空気に触れられる一冊です。	-	913.6 YOS
28	『流星ワゴン』	重松清	仕事も家庭も破綻し絶望した主人公が、不思議なワゴン車に乗り、自分と同年の父親の生き霊とともに過去をやり直す旅に出る。	「もし人生をやり直せたら」という誰もが一度は考える問いに、重松清らしい丁寧な筆致で向き合っています。家族との距離感に悩んだことがある人ほど刺さると思います。	ドラマ	913.6 SHI
29	『IQ84』 BOOK1、2、3	村上春樹	1984年の東京。暗殺者の青豆と、小説家の卯・天吾。二人は月が2つ浮かぶ「IQ84年」の世界に迷い込み、新興宗教団体や謎の存在を巡る運命に巻き込まれていく。	現実と非現実が入り混じるパラレルワールドに引き込まれます。圧倒的な物語のスケールを背景に、孤独な二人が互いを求め合う姿から目が離せなくなる人が多いでしょう。	-	913.6 MUR 1-1 1-2 1-3
30	『推し、燃ゆ』	宇佐見りん	生きづらさを抱える女子高生のあかりにとって、アイドルの「推し」だけが背骨だった。しかしその推しが炎上したことで日常が崩れていく。	「推し」という言葉が持つ切実さを、これほど生々しく描いた小説はなかなかありません。誰かを推した経験がある人ほど、読んでいて苦しくなるはずです。	-	913.6 USA

No.	書名	著者	内容紹介	コメント	メディアミックス	請求記号
31	『こころ』	夏目漱石	鎌倉で出会った「先生」を慕う青年が、先生の遺書を通じて、彼が親友を裏切り死に迫りやっていた過去の罪と、人間の深いエゴイズムを知る。	教科書で一部だけ読んで終わっている人も多いと思いますが、全編通して読むと印象がかなり変わります。「先生」の遺書に辿り着くまでの助走も含めて味わってほしい作品。	映画 ドラマ等	F913.6 F918.6 NAT
32	『人間失格』	太宰治	「恥の多い生涯を送って来ました」という独白から始まり、人間社会の偽善に馴染めず、酒や薬に溺れて破滅していく男の半生を描く。	社会に適合できない苦悩と孤独は、誰もが心のどこかに抱える弱さと共鳴し、時代を超えて若者の心を強く捉えます。	映画 アニメ等	913.6 DAZ
33	『星の王子さま』	サン＝テグジュペリ	砂漠に不時着した飛行士が、小惑星からやってきた王子さまと出会い、彼が様々な星で出会った大人たちの話から真理に気付く童話。	「本当に大切なものは目に見えない」という言葉は、効率や損得ばかりを考えがちな私たちに大切な真理を思い出させてくれます。	アニメ 映画等	909.3 IWA 2-2010
34	『52 ヘルツのクジラたち』	町田そのこ	他のクジラには聞こえない周波数で鳴く孤独なクジラのように、親から虐待を受け誰にも声が届かない女性と少年が、海辺の町で出会い魂を救い合う。	タイトルの由来になった「誰にも聞こえない周波数で鳴くクジラ」の話を知るだけでも読む価値があります。読み終える頃には、周りの人の見え方が少し変わるかもしれません。	映画	913.6 MAC
35	『ライオンのおやつ』	小川糸	余命宣告を受けた主人公が、ホスピス「ライオンの家」で残された日々を過ごし、「思い出のおやつ」を通じて命の尊さを味わう。	ホスピスというテーマの重さに反して、読後感には不思議と穏やかです。「今日食べたおやつ」を大事に思えるようになる、そんな一冊。	ドラマ	913.6 OGA
36	『水滸伝 第1巻 曙光の章』 全19巻	北方謙三	中国の古典を大胆に翻案し、腐敗した北宋末期に立ち上がった好漢たちの熱き生きざまや権力への反逆を、ドラマチックに描いた大河小説。	全19巻という長さにはなるかもしれませんが、1巻だけでも十分に熱量が伝わってきます。長期休みにじっくり腰を据えて読みたい大河小説。	ドラマ 漫画	913.6 KIT 1-1

【人生の哲学・社会への教養】

No.	書名	著者	内容紹介	コメント	メディアミックス	請求記号
37	『君たちはどう生きるか』	吉野源三郎	コペル君が、いじめや貧困、階級の違いに直面しながら、叔父からのノートを通じた助言を受け、人間としてどう生きるべきかを思索していく。	宮崎駿の映画で知った人も多いと思いますが、原作はまた違った味わいです。叔父さんのノートの部分だけでも、大学生になった今読むと響くところが多いはず。	漫画	159.5 YOS
38	『実践 ポジティブ心理学』	前野隆司	幸福感(ウェルビーイング)を高めるための行動や心の持ち方を、科学的なデータや心理学の知見に基づいて実践的に解説する。	「幸せ」を精神論ではなくデータで語ってくれるのが新鮮です。根拠のある方法を少しずつ試してみたいという人に向いています。	-	140 MAE
39	『嫌われる勇気』	岸見一郎 古賀史健	「人間の悩みはすべて対人関係の悩みである」とするアドラー心理学に基づき、他者の課題を分離し、承認欲求を否定することで自由に生きる方法を説く。	対話形式なので、哲学書が苦手な人でもすいすい読めます。「他人の課題に手を出さない」という考え方は、知っておくと人間関係がだいぶ楽になります。	ドラマ等	146.1 KIS 1-1
40	『夢をかなえるゾウ』	水野敬也	人生を変えたいと願う冴えないサラリーマンのもとにゾウの神様・ガネーシャが現れ、「靴をみがく」などの地味だが本質的な課題を与えていく。	関西弁の神様・ガネーシャの毒舌に笑いながら読んでいうちに、地味な課題の効き目にちゃんと納得させられます。自己啓発本が苦手な人の入門にも。	ドラマ アニメ等	913.6 MIZ 2-1
41	『夜と霧』	V.E. フランクル	ユダヤ人精神科医が、ナチスの強制収容所での体験を記録し、極限状態における心理変化と、いかなる状況でも奪われない人間の尊厳について綴る。	極限状態においても「人間の尊厳や「生きる意味」は決して奪われない」という事実は、どんな困難な状況下でも生きる希望を与えてくれます。	-	946 FRA

No.	書名	著者	内容紹介	コメント	メディア ミックス	請求記号
42	『自閉症の僕が、 跳びはねる理由』	東田直樹	重度の自閉症を抱える13歳の著者が、なぜ会話が難しいのか、世界がどう見えているのかを自らの言葉で綴ったエッセイ。世界30カ国以上で翻訳された、当事者による稀有な記録。	自閉症の当事者が自分の言葉で内側の世界を説明してくれる、非常に貴重な一冊です。「なぜそうするのか」がわかると、見える景色が変わります。	映画	378 HIG
43	『FACTFULNESS』	ハンス・ロスリング 他	「世界は悪くなっている」という思い込みを10の本能的偏見として分類し、データを用いて「世界は少しずつ良くなっている」事実を提示する。	冒頭のクイズにほぼ全問不正解になって、自分の思い込みの強さに愕然としました。ニュースの見え方が変わる一冊です。	-	002.7 ROS
44	『チーズは どこへ消えた?』	スペンサー・ジョンソン	迷路の中に住むネズミと小人が「チーズ(目標や幸福)」を探す寓話。チーズが消えた時、留まる者と行動する者の違いを通して変化への適応を説く。	変化を恐れず、新しい環境にどう適応していくべきかという教訓は、就活や社会人生活など人生の転換期に必ず役立ちます。	-	933 JOH
45	『塩狩峠』	三浦綾子	明治末期に実際に起きた鉄道事故を題材に、暴走する列車を止めるため自らの命を投げ打った青年の生涯と、キリスト教的な深い愛を描く名作。	実際にあった鉄道事故を題材にしていると知って読むと、フィクション以上の重みを感じます。信仰の有無に関わらず、心を動かされる人は多いはずです。	映画	913.6 MIU 1-3
46	『影響力の武器』 人を動かす七つの原理	R.B. チャルディーニ	セールスマンなどが人に承諾をさせる際に用いる心理学的なテクニックを6つの原理に分類し、人間が自動的に動かされるメカニズムを解説する。	セールスや勧誘の手口がここまで体系立てて説明されると、逆に怖くなります。知っておくだけで、怪しい話に流されにくくなる実用書。	-	361.4 SEI
47	『イシューから はじめよ』	安宅和人	問題解決にあたり、すぐに解決策を考えるのではなく、「そもそも今本当に解くべき問題(イシュー)は何か」を見極めることの重要性を説く。	「頑張る前に、そもそも何を解くべきか考える」という当たり前のようで難しいことを、丁寧に解説してくれます。卒論やレポートに迫られている人にも刺さるはず。	-	336.2 ATA
48	『具体と抽象』	細谷功	コミュニケーションのギャップは、「具体(目に見える)」と「抽象(概念)」の思考レベルの違いから生まれるとし、この2つを往復して考える重要性を説く。	話が噛み合わない相手がいる理由が、この本を読むとずんと腑に落ちます。図解も多く、思考法の本の中では読みやすい一冊です。	漫画	141.5 HOS
49	『金持ち父さん 貧乏父さん』	ロバート・キヨサキ	高学歴だがお金に苦労する父と、中卒だが資産を築いた父の教えを対比させ、「お金のために働く」のではなく「お金を働かせる」という考え方の重要性を説く。	学校では教えてくれないお金の話を、対照的な二人の父親の生き方を通して学べます。お金の苦手意識がある人ほど、得るものが多いと思います。	-	159 KIY
50	『GIVE & TAKE』	アダム・グラント	人間関係を「与える人・奪う人・バランスをとる人」に分類し、最も成功を収めるのは、自己犠牲ではない、賢い「与える人」だと証明する。	「良い人ほど損をする」というイメージを、データでひっくり返してくれる一冊です。ボランティアやサークル活動に力を入れている人には特に響くと思います。	-	336.4 GRA